

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成27年度採択)  
事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
27-3	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	神戸大学 教授 澁谷 啓	B
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用 全国に多数存在する耐震性が不十分な既設の沢埋め道路盛土を対象に、物理探査と簡易なサウンディングの組み合わせによる経済的で合理的な耐震診断法および熟練技術を要せず安価に施工できる土のう構造体を用いたのり先耐震補強工の研究開発を行った。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt; 個々の研究課題およびその総合的成果としては十分に達成されたとは言えないものの、設定した目的に対して概ね成果は得られている。沢埋め盛土の診断・補強は重要なテーマであり、提案されたスクリーニング手法は実務でも有用なものとなる可能性が高い。また不明な点が多い土工構造物の耐震診断、耐震補強法についても盛土内水位の影響など新たな知見が得られており、有用性も認められ、更なる検討が進めば実務にも反映できるものと期待される。</p> <p>&lt;参考意見&gt; 1. 実務的に活用することを考えた場合、個々の研究成果とともにその統合的機能として検討すべき内容が多く残っていると考える。 2. 提案された調査方法が、従来方法より優れていると評価するには、着目している地下水等の要素がどのようなメカニズムにより説明されるのかが重要である。 3. 補強方法の提案について、アンカー効果、一体性、土嚢のなじみなどのメカニズムの論理的説明が求められる。 4. 研究の目的は喫緊の課題であり、誠に時宜を得ている。調査・診断・補強に至る一連の過程において、経験豊富かつ有能なエンジニアは不足しており、ある程度の診断・評価・設計ができるような支援システムへの結実を期待する。 5. 開発した新耐震補強工法の主要な対策原理として、盛土内水位を低下させる効果があることを、もっと積極的にアピールしていく必要がある。 6. 具体的な事例(ケーススタディ)を進めることにより、実効性が増大すると考えられる。 7. 現行導入されている防災カルテの安定度調査票の評価に関する分析結果については、制度化や現場実務への適用性等の観点など別途検討が必要な課題が残されており、今後の課題である。 8. 提案の耐震補強については、条件によって成立しうることが示されたものの、その適用範囲や他工法との比較により優位性の発揮できる適用条件、施設が被災した場合の復旧性について明確化されれば、実務への反映も期待される。</p>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第35回新道路技術会議において審議したものである。